

一般財団法人 Ruby アソシエーション 臨時評議員会
議事録

1 開催場所：楽天タワー2号館 会議室

2 開催日時：2012年2月16日（木）11:00～13:00

3 評議員現在数及び定足数：現在数12名、定足数6名

4 出席評議員数：10名

（本人出席）及川喜之、大場寧子、後藤裕蔵、柴田直樹、正村勉、立久井正和、
羽田昭裕、平松知江子、森正弥、吉岡宏

（欠席）最首英裕、吉田正敏

5 出席理事：松本行弘理事長、前田修吾副理事長、井上浩理事

6 支援スタッフ：杉原健司、福田一斎

7 オブザーバ出席：中島宏、松本新吾氏、田中哲也氏

8 協議事項

（1）2012年度事業計画案について

（2）2012年度収支予算案について

9 会議の概要

（1）議長の専任と定足数の確認

- ・ 事務局より、定款の規定に基づき、出席の評議員から選出することを説明。
- ・ 評議員から事務局一任との意見があり、事務局より平松評議員を推薦。
- ・ 出席評議員から異議はなく、平松評議員も承諾されたため、平松評議員が議長に就任。つづいて開催要件の過半数である定足数を充足していることを確認し、本臨時評議員会の成立が宣言された。

（2）松本理事長あいさつ

- ・ 設立当時は財団運営に不安も感じていたが、理事、事務局の頑張りもあって、組織としてしっかりしてきた。
- ・ 協賛会員の募集を開始し、申請数も順調に伸びてきている。
- ・ 初年度に関し、予定通り以前よりも規模を拡大して Ruby アソシエーションの活動ができることを喜ばしく思っている。
- ・ しかし、この財団は組織、事業を継続してはじめて意味がある。
- ・ 協賛企業や関係団体にとってメリットのある活動をすることはもちろん、Rubyの普及に寄与することでIT産業にとって良い影響を与えることが出来るよう、理事も事務局も鋭意努力していく。

(3) オブザーバ紹介

- ・ 中島宏 (株)DTS ※2012年2月14日の評議員選定委員会で評議員に選出。登記処理を経て正式に評議員に就任予定)
- ・ 松本新吾 (島根県)
- ・ 田中哲也 (松江市)

(4) 2012年度事業計画案について

- ・ 前田副理事長が別添資料1「一般財団法人 Ruby アソシエーション「2012年度事業計画書」(案)」によって来年度事業計画案を説明。

(質疑応答)

- ・ 吉岡評議員：資料 P4「協賛会員事業」について、各区分の協賛会員数の見込は立っているか。
- ・ 前田副理事長：資料 P5 に掲載のとおり、Platinum7社、Gold6社、Silver40社を見込んでいます。
- ・ 杉原：現在、評議員輩出企業のほか Sier 認定事業者などを直接訪問するなどして協賛を依頼。Platinum、Gold は、評議員輩出企業を中心に目処が立っている。Silver は会員申請も増えてきているが、現状 20 数社。3 月末まで 40 社以上となるよう引き続き協賛依頼に取り組む。
- ・ 井上理事：資料 P5「寄付事業」について、寄付をする側の税制上のメリットはあるか。
- ・ 杉原氏：調べた上で正確な情報をあらためてメールでお知らせする。
- ・ 平松議長：資料 P5「関係機関との連携」に関して、本日欠席の吉田評議員より「日本 OSS 推進フォーラムも Ruby アソシエーションと連携していきたい」とメッセージを言付かっている。
- ・ 正村評議員：資料 P3「ビジネスセミナー」について、2カ月に1回のペースで開催とあったが、同じセミナー内容で開催するのか。この間隔だと発信するコンテンツを集めることや、講演者の調整が大変だと思う。
- ・ 前田副理事長：年間複数回を開催するのは東京になると考えているが、東京ではテーマ、内容を変えて開催したい。なお、年間6回程度の開催のうち、RubyWorld Conference も含めているため、その他で5回の開催を計画している。
- ・ 正村評議員：日本 Ruby の会が中心となって開催されている「Ruby Kaigi」は、今年は開催されるのか。
- ・ 前田副理事長：少なくとも今年は開催されないと聞いている。なお、Ruby Kaigi は実行委員会形式で、Ruby アソシエーションも開催実行委員会構成機関の一つ。
- ・ 正村評議員：Ruby アソシエーションが取り組むのはビジネスセミナー中心だが、Ruby Kaigi は発者寄りのイベント。ビジネスセミナーだけでなく、こうした開発者寄りのイベントも重要。日本 Ruby の会と協調して、ビジネスセミナーと上手く連携できるとよいと思う。
- ・ 前田副理事長：RubyWorld Conference は、今年は11月8日(木)、9日(金)に開催する。この翌日(土)に続けて開発コミュニティ中心のイベントを開催しては、との話もあるが、準備・運営で困難な面もある。
- ・ 松本理事長：9月の札幌など全国で、開発コミュニティ中心の地域 Ruby Kaigi の開催が予定されており、ビジネスセミナーばかりだ、という印象はそれほど無いかと思う。Ruby アソシエーションが関わっていないイベントも多く、当財団とし

て技術者向けのイベントに関わっていくかどうかは今後検討させていただきたい。

- ・ 吉岡評議員：資料 P3「情報発信事業」の利用事例の紹介で、基幹業務での導入実績の紹介がない。例えば、島根県庁のシステムに導入された事例もあるので、取り上げてはどうか。
- ・ 杉原氏：情報発信事業に取り組むワーキンググループメンバーも、その必要性を認識している。島根県庁や松江市役所の取り組みも今後は紹介する予定。
- ・ 羽田評議員：資料 P4「標準化維持事業」について、予算計上がされていないが、どのような活動を想定しておられるか。
- ・ 前田副理事長：現状は費用が発生しない活動を想定。最も費用がかかるであろう標準規格のメンテナンスについては現段階の財団の収入見込では対応が難しいため、将来的な対応として検討し、情報処理推進機構（IPA）と相談したい。
- ・ 平松議長：資料 P3「情報発信事業」の技術情報の紹介で、メーリングリストや Web を活用した課題解決の仕組みを検討、とあったが具体的な内容は。
- ・ 前田副理事長：具体的には、今後の検討課題である。但し、こうした方法が有効に機能するためには、コミュニティが形成されていないと困難であり、当財団だけでは対応、解決できないと考えている。
- ・ 吉岡評議員：資料 P5「認定クラウドサービス制度」について、認定基準などが難しいのでは。
- ・ 前田副理事長：認定の対象範囲をどこまでするか難しい。当初は PaaS だけを考えていたが、それだけでは認定対象者がかなり限定されるため、IaaS、SaaS などのレイヤーを対象にすることも考えている。一方で対象を広げると認定条件が難しくなるという課題もある。具体的には今後検討していく。

（5）2012 年度収支予算案について

- ・ 杉原支援スタッフが別添資料 1「2012 年度 一般財団法人 Ruby アソシエーション 収支予算案」によって来年度予算案を説明。

<質疑応答>

- ・ 森評議員：評議員会等の会場費用については、評議員輩出企業で提供可能なところがあれば、この場で募るとコスト抑制につながると思う。会場の規模はどのくらいであればよいか。
- ・ 前田副理事長：有難い提案である。ビジネスセミナーは 100 人規模を想定。
- ・ 杉原氏：評議員会は、最大で 25 名。
- ・ 立久井評議員：IIJ でも会議室や、100 名規模のカンファレンスルームを提供可能。但し、早めに申し出てほしい。
- ・ 正村評議員：日立ソリューションズでも昨年 10 月のビジネスセミナー開催時の会場や、本社ビルでカンファレンスルームを提供可能。やはり同じく早めに会場を予約する必要がある。
- ・ 杉原氏：今後のビジネスセミナー開催の予定を検討するとともに、6 月頃の開催を予定する定時評議員会（決算総会）は後日早速に日程調整をしたい。
- ・ 吉岡評議員：今年度は財団支援として県の補助金があったが、来年度も同様の支援があるか。
- ・ 島根県松本氏：補助金の目的は、財団のスタートアップ支援であり、来年度は特段の予算化はしていない。
- ・ 松江市田中氏：その他に通常の企業支援の補助金制度があるので、こうした制度の

活用が考えられると思う。

(6) その他意見交換

- ・ 柴田評議員：(資料を配布) 昨年開催した「中高生国際 Ruby プログラミングコンテスト」の御礼を申し上げたい。松本理事長には審査委員長を森評議員にも審査委員を務めてもらい、Ruby アソシエーションも実行委員会の構成団体に、また島根県、松江市からも後援いただいた。第1回目としては成功裏に開催できたと考えているが、残念ながら海外からの応募がなく、また国内でも関東以北からはなかった。今年も開催するので、ぜひ告知に協力して欲しい。
- ・ 井上理事：U-18 部門で最優秀賞になった学生は、島根県が開催する「Ruby 合宿」に参加した経験をきっかけにコンテストに応募された。様々な事業が好影響を与えている。来週から島根県では Ruby 合宿が開催される。
- ・ 松本氏：今年度は従来の夏だけでなく、冬にも開催することにした。定員 25 名だったが、全国より 29 名が参加することになった。
- ・ 井上理事：今年の中高生国際 Ruby プログラミングコンテストの開催予定は。
- ・ 柴田評議員：12 月 1 日に最終審査会を開催する予定。
- ・ 平松議長：学校教育でも Ruby を教える機会が増えるとよいが。
- ・ 松本理事長：プログラミングは学校教育に馴染みにくい。学校教育はみんなが一定水準に達することを求められるが、プログラミングは 1,000 点もあれば 0 点もいるように差がでる。

※ここで、松本理事長は都合により退席。

- ・ 吉岡評議員：Ruby2.0 のリリース予定は。
- ・ 前田副理事長：今年度のリリース予定はない。来年の予定である。
- ・ 中島氏：「認定クラウドサービス制度」の制度の検討状況は。
- ・ 前田副理事長：認定基準について、SIer 認定事業は、技術者認定試験の合格者数など形式的に判断しやすい。クラウド認定は、例えばサービスの仕様を提出いただき、審査することになるかと思うが、その場合に相当の審査コストを要するようだ。財団としての運営は厳しい。メールでも良いので、審査基準のアドバイスを頂けると助かる。
- ・ 中島氏：一般的には SLAなどを基準にする場合が多い。
- ・ 前田副理事長：審査基準が Ruby から離れると、財団として認定制度を用意する意味がなくなるため難しい。
- ・ 正村評議員：財団として、Rails との関係はどう考えているか。
- ・ 前田副理事長：例えば、情報発信事業での事例紹介では Rails を取り上げている。しかし、例えば Rails 自体の開発に踏み込むようなこと、Rails 開発者に影響力を持つような形になることは不自然であると考えている。
- ・ 正村評議員：その他、JRuby や他のプラットフォームの方々との関わりは。
- ・ 前田副理事長：公募型開発プロジェクトでは、処理系も助成事業の対象にしている。必要であれば、JRuby 等の開発の活動についても支援していく。

以上をもって協議を終了したので、議長閉会を宣し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

平成 24 年 2 月 16 日

議 長 平松 知江子 

議事録署名人 吉岡 宏 

議事録署名人 後藤 裕蔵 

本議事録の作成にかかわる職務を行ったものの氏名
一般財団法人 Ruby アソシエーション 副理事長 前田修吾